

小・中学校の普通学級で、安心できると 感じられた学校(先生)等の対応の例

(これまで共に育つ教育を進める千葉県連絡会に寄せられた、障がいのある子の実例より)

1. 中学3年生の我が子は移動に車椅子を使用している。校舎の本館にはエレベーターが設置されているが、理科室(2階)や音楽室(3階)のある別館にはついておらず、移動が困難で授業に遅れるか授業に間に合っても疲労で授業を受けるのは大変な状況である。そこで別館にもエレベーターの設置をお願いしたところ、校長から教育委員会に要望をあげてもらえ、教育委員会からは「状況を知らずにいて大変申し訳なかった。今年度の予算はないが何とか財政当局と協議し、お金をかき集めて今年度中に土質調査をし、設計を終えて、来年度工事をやり最短で設置する。在学中には設置するようにしたい。」と言ってもらえた。
2. 小学校。校長先生は子供の顔を見ると話しかけ、母親にも「〇さんは皆から好かれていて良い性格ですね」など褒める言葉を言う。子供がクラスの一員として受け入れられていると感じて嬉しい。
3. 小学校。子供がメガネを修理している時に、親が「字が見えづらいかもしれない」と連絡帳に書いたところ、テレビ画面を使って字を拡大するなどの配慮をしてくれたので、子供も困ることなく授業を受けることができた。
4. 中学生。担任が時々学校での子どもの様子について連絡をくれるが、学活や担当教科の授業の様子だけでなく他の教科や部活での様子などについても伝えてくれるので、学校全体で子どものことをみている様子が伝わり安心できる。
5. 担任の先生は子どもが頑張っている事や楽しんでいる様子を書いてくれるので、とても安心できます。
6. 中学生。校長から「何ができるかではなく、その時間楽しく過ごせるのが一番。どの子も生きていく力をつけることが大切。」との言葉があり、とても安心できた。
7. 小学生。担任は子どもの立場に立って話してくれる。今までの担任のように怒鳴りつけることもなく、安心できる。
8. 中学生。学校では、手が空いている先生方が協力し合って、子どもの困ったことに対応してくれている。担任の先生一人に、任せているのではないと感じ、とても安心した。
9. 中学生。担任の先生の専門教科は理科だけれど、体育が苦手な子どものために馬跳びを一緒にしたと、あとから、教えてもらいました。
10. 全校歩き遠足。歩けない息子は例年学校の車で先に現地に到着していた。今年は担任から、骨折等で

当日歩けない児童には保護者の送迎をお願いしていると言われた。お断りした所、今年度から学校の車は出来るだけ出さない事になったとのことで、補助の先生がバギーを押してくれ、初めて皆と一緒に行動出来た！保育園では当たり前だった事がやっと実現した！

11. 小学校入学前に、学校に普通学級に通いたいという話をすると、校長先生から「特別なことはできませんが、息子さんが楽しく通えるようにしたいと思います。元気に喜んで通ってきてくれることが何よりです。」と温かい言葉をいただきとても安心した。
12. 就学前に学校に話に行った際、校長・教頭は歩行が苦手なわが子と一緒に校舎内を見学しながら、スロープや手すりの設置など改修を希望する箇所など丁寧に聞いてくださった。その対応に前向きな受け入れの気持ち・姿勢をみることができ安心できた。
13. 校長先生に「担任の先生だけに負担にならないように学校全体で見て下さい。」とお願いをすると「わかりました。」と言ってもらいました。
14. 中学入学前に挨拶に行ったところ、校長から「心配しないで下さい。安心して預けて下さい。何かあったらすぐに連絡して下さい。」と言葉をかけてもらい、担任の先生も「細かい所まで目の届く人がいいでしょう」とおっしゃった通りの人だった。クラスのメンバーも、小学校の先生にお願いしたお友達がたくさんいたので、「感謝」の一言に尽きる。子どもは安心して元気に通っている。
15. 知的障害の娘の入学予定の中学校へ挨拶に行った時、「付き添いはしません」と言ったところ、校長先生が「障害があるから付き添えというのは差別。あり得ない」「学校は勉強以外にも学ぶことが沢山ある。娘さんのペースで大丈夫」と言ってくださり安心した。入学後も付き添い依頼はなく、体育祭などの行事の際も全て学校で考えてくださり、娘も楽しく参加できた。
16. 小学2年生。担任の先生は、初めてお会いしたときに「お母さんからみて○君の良い所というのはどういう所ですか？」と聞いてくれた。ほめる所へ目を向けてくださる姿勢が嬉しかった。
17. 小学1年生。子どもがおもらしする事を心配する母に対し担任は「気にしなくて大丈夫、他の子もあるよ。保健室に着替えもあるし…」との返事。友だちにからかわれたりすることもなく毎日楽しく学校に行ってπいる。担任がわが子やその友だちに上手に接してくれていると感じる。
18. 度々おもらしをし、そのたびに教頭から「また漏らした！」「病気なんじゃないの！普通級にいるからじゃないの？」と言われていた。しかし進級して担任が変わり、障害があっても自分の生徒の一人だと認めてくださり、必要な配慮を嫌がらずに当たり前にして、子どもの居場所を作ってくれる先生になったところ、子どもは学校が楽しいと言い、おもらしもなくなった。
19. 全学年で20クラスあり800名ほどの生徒がいる中学校に入学。登下校の送り迎えをしていると、多くの先生や生徒がわが子に向かって「○君、おはよう」「○君、さようなら」などと声をかけてくれる。普通の学校生活もこんな暖かい雰囲気があるのだらうと思え安心する。
20. お尻を拭くのがあまい息子の為に、担任の若い男の先生はお尻を拭いてくれている。私からお願い

したわけではないのに、そこまで気にかけて頂けたことに感謝の思いでいっぱいです。

21. 子どもは低筋張で外反偏平足の為、疲れやすく歩くことが苦手。5年生の移動教室でのハイキングコースを校長先生と手をつないで歩く姿が写真に収められていました。担任の先生からは、子供ががんばって歩いた事、お友だちが励ましてくれていた事、車も使った事を教えて頂きました。みんなと一緒に過ごした移動教室は、とても楽しかった事を子どもから聞くことも出来ました。
22. 校長先生は、「学校に来たら、私たちが責任をもって預かります。」と言い、親に学校での手伝いを依頼することもない。プールも校長先生が我が子を抱っこでかかえて入ってくれた。行事の時も親の付き添いを求められることはなかった。
23. 教育委員会にお願いした手すりとは、すぐに希望通りの場所に取り付けてもらった。手すりのおかげで転ばないで子供一人で昇降口の階段の上り下りが出来るようになった。
24. 小学校1年生。皆と一緒に教室に貼られた我が子の絵はとても幼いぐちゃぐちゃの絵で、絵具の水分で画用紙に穴も空いていたが、担任は「これを描いた時、〇ちゃんは真剣な顔で何度も何度も筆を重ねて、一生懸命描いていたんですよ。」と楽しそうに話してくれた。そういうことを嬉しそうに話してくれる担任の姿がとても嬉しかった。
25. お友達から、娘が先生に毎日何度も同じ話をしていると聞いた。先生にお会いした時に「忙しいのにすみません」と言うと、「大丈夫、それがSちゃんのコミュニケーションですから。それに、私と話したいと思ってくれることが嬉しいです」と言ってくださった。
26. 肢体不自由で、体育はみんなと同じ事ができるわけではないが、体育の通知票の評定は5段階で「3」が付いていた。ちゃんと子どもの意欲や頑張りを認めてくれている先生はすごいと思った。
27. 小学2年生。担任の先生に「ご迷惑をおかけします」と言ったら、「迷惑なんて思っていないので、これからは迷惑という言葉は言わないでくださいね」と笑顔で言ってくださった。
28. 移動やトイレや着替えなどに介助が必要だが、担任だけでなく、校長先生や他の先生方も折りに触れて我が子に声をかけてくれ、手を貸してくれている。
29. 医療的ケアが必要だが、親は付き添いを求められることなく、学校で対応してくれている。
30. 小学5年生。担任の先生が変わり、面談の際に「手伝いやすい、一番前の席でもいいですか？」と聞かれ、不本意だったが先生の気持ちも考え承知した。しかし、後日「Aちゃんが『みんなと同じく、席替え、くじ引きをしたい』と言ったので、くじ引きで席を決めました」と連絡があった。娘の気持ちを尊重してくださる先生だとわかり、嬉しく思った。
31. 小学校に入学したてで落ち着かない行動が多いにもかかわらず、担任はそれを非難することなく、むしろ「給食をたくさん食べました。」「身体測定の着替えが上手にできました。」「お友達と一緒に黒板拭きを頑張りました。」など、本当に小さなことを連絡帳でほめてくれた。家庭でも連絡帳に書いて

あったことを話題にしたりして、親子ともに励みになった。

32. 娘は知的障害があるが、先生は、授業参観の時も他の子と同じように手を挙げている娘を指名。前に出て発表した内容が間違えていても「〇〇ちゃんはそう考えたのね」とその考えを尊重し、発表した気持ちや姿勢を大切にしてくれる。他の保護者の前でそのような姿勢を見せてくれることで、「〇〇ちゃん頑張ってたね」など声をかけられることが多い。クラスの友達の間も温かく、娘は自分に自信を持って学校生活を送れている。
33. 小学5年生。先生は、車イスの我が子が体育もみんなと一緒に参加できるようにと考えてくださり、バスケットのゴールを手作りしたり、縄跳びは抱いて飛んでくださったり、とび箱、サッカー、ドッジボールなど何でもやらせてくれる。できないながらも友達とできる喜びを感じ、子どもは体育が大好きだ。
34. 小学5年生。移動、食事、排泄、着替えなど全介助が必要だが、これまで一度も親の付き添いは求められた事がない。担任や少人数指導の先生、教務主任、養護教諭、教頭、校長、多くの先生が交代で子どもをみている。子どもは給食をよく食べさせてくれる教頭が大好きだし、関わって下さった先生方に校内で会うととても嬉しそうにしている。もし介助員がいたら校内の子どもの居場所は介助員がいる所だけになってしまうだろう。子どもも親も、学校全体で受け入れてもらっているという感覚があり、それはとても安心できることだ。
35. 全介助が必要な車椅子使用の中学1年生。小学校では「特別支援教育を断って『みんなの中にいたい』というなら、お母さんが付き添ってください。」という内容を言われ続けたが、中学校では、水分補給・給食・プールを含め「お母さんさえ心配なければ任せてくれるかな。」と言って下さり、親の付き添いなしのあたりまえの学校生活になった。学校・クラスの一員としてしっかり受け止めて下さる先生方、仲間としてくれる友達の中で楽しく過ごしている。
36. 小学校3年生までの先生からは、親の付き添いを求められたり子どもがクラスから追い出されたり、いつも迷惑がられひどいことを言われてきたが、4年生になって校長や担任が替わったら、そんなことが全くなかった。とても温かく子どもをみてるようになり、子どもは明るく登校するようになった。先生にお礼を言うと「〇君も大切なクラスの一員です。当たり前のことをしているだけです」と言ってくださった。安心して学校に送り出せる幸せを感じた。
37. 小学6年生、知的障害の娘。校長先生との面談時に「宿泊学習は付き添いなしで」と話した、「学校でお預かりしているお子さんなのでから学校で連れて行きますよ。全員が楽しめるよう計画しますので、ご心配なことがあれば何でも話してください」と言って下さり、安心しました。
38. 小学校6年生の宿泊学習で、先生方は下見をし、車いすでも皆と同じことをさせてあげたいと色々準備や提案をしてくださった。地引網や防空壕見学、キャンプファイヤーなどお友だちと一緒に最高の思い出ができ、先生方には本当に感謝です。
39. 中学校、車イスを使っている。子どもは3泊4日の自然教室に参加し、学校側がいろいろな対応の仕

方を考えてくれ、移動、バスの乗降、入浴など介助を受けながらみんなと一緒に藤細工やキャンドルサービス、フォークダンスなどたくさんの体験を楽しんできた。帰った時に介助して頂いた方に「有難うございました。」と親がお礼を言った時、「こちらこそとっても楽しい時間を過ごす事が出来ました。有難うございました。」と言って頂いた。とても疲れていると思うのに、こんな言葉を返してくれて本当に嬉しく思った。子どもは家に帰ってから、あれしたこれしたと色々と楽しかった話が止まらなかった。

40. 小学校の遠足に、ちゃんと連れていってもらえるか、車イスを誰か押してくれるのかと心配で担任に確認したところ、『全く問題ありませんよ。車イスを押す先生もいますから！』との返答をいただけた。すっかりその体制が『普通』であり、我が子を特別視していないかのような対応の良さだった。実際は先生方の深いご理解とご協力があったの事と思うが、それを『ごく自然』にしてくださっていることにとても嬉しく思い、感謝した。そして当日、子どもは大満足で帰宅し、たくさん話を聞くことができた。

41. 子どもを偏見なくみる先生なので安心する(例えば知的障害児に対してハサミは危ない、危険な子として禁止するなどのようなことをしない)。

42. 発表の時本人が言いやすいセリフにしてくれた。

43. 年齢相応の普通の声かけをする。

44. 子どもの良いところを見つけてくれる。おかげで子どもはさらに成長した。

45. 靴隠しのいじめにあい男子児童の靴が女子トイレで見つかった時に、靴が見つかったから良いではなく、子どもが家まで気持ちを引きづらないように学校で担任が解決してくれた。

46. 体が不自由な子、学校では皆と同じように縄跳びをしたり遠足にいつて綺麗な花びらを拾ったり友達から髪を結ってもらったりと普通に過ごしている。

47. 小学2年生。担任は給食当番で、配膳ができない我が子のために、牛乳やストローを配るかかりをやらせてくれた。連絡帳も、先生が一旦、青鉛筆で下書きしてくれて、それを子どもになぞらせることをしてくれた。子どもが本好きなことを知った先生は、休み時間に、一緒に図書室についてきてくれて、たくさんの本の中から、子どもが読めそうな「ひらがな」だけで書かれた、簡単な本を娘と一緒に探して、借りてくれていた。決して「皆と同じように出来ない子にはやらせない、出来ない子は放っておく、出来ないのだから仕方ない」ではなく、授業参観でも、運動会でも、遠足でも、音楽会でも、子どもだけではなく、クラスの生徒全員、一人ひとりに対して「この子はどうしたら参加できるのか？」をいつも考え、工夫してくださっていた。「真面目で、誠実、熱心で、気が利いて、生徒思いで、面倒見がよい」・・・そういう言葉がぴったりで、他の保護者からも「〇〇先生、ほんとにいい先生だね」と言われるような先生だった。

48. 小学2年生。登校初日、漢字が読めない子の下駄箱に担任が目印のシールを貼ってくれたので子ど

もはそれが自分の下駄箱であることを一度で覚えた。担任は自分がこれから受け持つ生徒たちについて、事前に他の先生方にも確認して、子どものことを知り、子どもが困らないように工夫してくださっていたようだ。

49. 授業中に子どもが困っていると、担任が「このページ開くんだよ」とか近くのお友達が「ここに名前書くんだよ」とか優しく声をかけてくれている。

50. 小学生。運動会で借り物競争があり「借り物」の札・ルールがわかるか不安だったが、先生方の工夫と連携でしっかり「借り物」をもってゴールできた。

51. 運動会の組体操。わが子のグループだけ曲に合わせて演技できないのではと不安だったが先生は「何とかします、楽しみにしてください」と。当日、少し離れたところにいる先生の指示を見ながらわが子はみんなと一緒にポーズを作り、難しいところはグループの側で不自然でない別のポーズをしながら曲に合わせて演技ができた。先生の工夫と友だちの協力をありがたく思った。

52. 小学1年生。車椅子でトイレや着替え、給食などで介助が必要だが、介助員がつくことなく学校全体で考えてくれて、親の付き添いを求められることはない。校外学習もプール授業もみんなと一緒に。運動会では先生が車椅子を押してくれて、走ったりダンスしたりみんなと同じ種目ができ、とても良かった。

53. 車椅子を使っている。体育の時間、握力が弱くて自分の体重を支えることが難しく足で棒を抑えることも難しかったが、先生が登り棒を自ら握って踏み台にしてくれて登り棒を登らせてくれた。クラスの友達の声援を送ってくれ、子どもはてっぺんまで登ることができた。子どもは満面の笑みでしばらく登り棒のてっぺんから降りてこなかった。先生のおかげで子どもは新しい世界を手に入れることができた。

54. エレベーターが必要なことを伝えると小学校にエレベーターが設置された。中学校は進学に合わせてエレベーターを設置してもらえることになった。

55. 英語の時間の音読、他の子同様にあててくれ隣の席の子と一緒に音読してくれる。

56. 発表をする時、だんだん声が小さくなって聞こえないところは担任が通訳してくれていた。

57. 担任の先生が、賞状に頑張ったことをたくさん書いてくれた。子どもにも読めるように全部ひらがなで書いてくれ、本人も嬉しそうに読んでいた。

58. 小学1年生。授業参観で子どもの様子を見たら、次の行動の時に担任が一声かけてくれていた。不足部分は席の近くのクラスメートが助けてくれていた。運動会でも他のクラスの先生が誘導してくださっていた。普段の生活でも困っていると、来て助けてくれるそう。さらにありがたいと思ったのは、同じ幼稚園だった子ども達だけでなく、クラスや学年を超え、「上級生との活動」の後から6年生5年生が我が子を気にかけてくれるようになったこと。

59. 小学6年生。運動会の応援団で、ハチマキをしないといけませんが、わが子は結べない。どうしているのかと思っていたら、その都度そばにいる人が結んでくれたらしい。できない時はだれもが助けてくれる雰囲気があり、困ることなく楽しく学校に通っている。
60. 小学校、車椅子使用。担任が丁寧にサポートしてくれたおかげで、クラスの子どもたちも、応援してくれたり、少し待ってくれたり、車椅子の操作がしやすいように道を空けるなどを自然に行う心優しいお友達でいっぱいになった。
61. 小学校、車椅子使用。一緒にカルタ取りを楽しみたいからと「〇〇くんルール(読み札を読んだ後20秒間は子どもが取る時間を設けてその後は全員が一斉に取る)」を子どもたち自身で考えた、と担任が親に教えてくれた。
62. 小学校、車椅子使用、授業参観で、子どもの粘土作品を紹介するときに、「電車」の作品にエレベーターも作ってあることについて、担任は「みんな階段をのぼって電車に乗りますが、〇くんは電車に乗るときに階段をつかうことが難しいのでエレベーターを使うんですよ。エレベーターがあることで〇くんはみんなと同じ電車に乗れるんです。だから〇くんは電車の作品を作るときにエレベーターも一緒に作ったんですよ」とバリアフリーの大切さも併せて説明してくれた。
63. 中学校に「ウォシュレット付トイレの設置」をお願いしたところ、合理的配慮ですからと快く承諾してもらった。
64. 中学校の校長先生から「お子さんの事は任せて下さい」と言ってもらった。
65. 中学入学前に学校へ挨拶に行ったら、校長から「大切なお子さんなので預からせていただきます」と言われ安心できた。
66. 以前の担任はベテランだったが口先だけで、ヒステリーでストレスを子ども達にぶつけ、子どもをはじきだすことしか考えておらず信用はできなかった。でも、先生になって二年目に担任になった先生は、誰もが差別されることなく皆大切な存在で仲間だと言い続ける先生だった。わが子のことも個性だと言ってくれ、苛められることもなかった。経験がない先生は偏見もなく、親の話しも聞いてくれた。
67. 中学生。暑さに弱く、教室などでも寝転んでしまうことがある。ある時は教室の出入り口に頭を廊下側、足は教室という状態で寝転んでいたらしい。だが担任は「風が通って涼しい場所なんです。足だけ教室に入っていて…。教室にはいないといけないと思っているみたいです」と子どもの気持ちをくんでくれた。
68. 中学生。運動会の障害物競走で、均一に同じ障害物を通過するのではなく、ハードルも高さを変えたものを置き、跳び越えるのが苦手な子は自分の跳べる高さを選んで跳んでもいいし、くぐってもいいなど、子どもたちが自分で選んで通過できるよう工夫されていた。
69. 小学校。教室階に車椅子用トイレがないので教育委員会にお願いしたら、すぐに対応してもらえた。

70. 小学校。まだ年中だが、地元の入学予定の小学校にエレベーター設置のお願いに行ったら、校長と教育委員会の方が設置を約束して、どこに設置するのが使いやすいかを一緒に見て回ってくれた。小学校。教室階に車椅子用トイレがないので教育委員会にお願いしたら、すぐに対応してもらえた。

71. 小学校。まだ年中だが、地元の入学予定の小学校にエレベーター設置のお願いに行ったら、校長と教育委員会の方が設置を約束して、どこに設置するのが使いやすいかを一緒に見て回ってくれた。

72. 小学校。就学予定の小学校に、心配があり子どもの相談に行った。下記のように親身になって相談に乗り、回答をもらうことが出来、安心した。

- ・「着替えるのが遅い。体育の授業に間に合うか？」→「1年生はみんな時間がかかる。授業前の短い時間ではなく、朝や長い休み時間に皆で着替える」

- ・「給食の汁物は並々注がれるか？(こぼす事がある)」→「こぼしてしまう子もいる。汁物はお椀に並々入れないで、少なめである。」

- ・「身長がまだ100cmしかない。トイレや手洗い場は届くか？」→「105cmの子は、洋式しかないトイレではよじ登って用を足している。手洗い場や水飲み場は、踏み台が置いてある。就学前に本人を連れてきて高さを確認することもできる。」

- ・「食事の際、補助箸でないと上手く使えない。」→「1年生は補助箸でないと食べれない子もいる。持ち込みが可能。」

後日、トイレと水飲み場の高さの確認に行ったら、トイレは使えることがわかった。水飲み場と手洗場は蛇口が長いものに改善されていて、我が子も踏み台なしで使えるようになっていて安心した。

73. 小学校。子供同士のトラブルが起きたとき、当事者や、見ていた子供たちに話を聞くのは当然のことと思うが、担任は話がうまく出来ない○にも向き合ってゆっくり気持ちを聞き出そうとしてくれる。

74. 小学校。担任は字を書くのが好きな○に紙と鉛筆を渡し思いを書かせてくれた。決して読みやすいとは言えない字でカレンダーの裏紙2枚位の広さを埋め尽くした○の言葉を、一生懸命拾い読みしてくれた。そして○が言いたい事をその中に探してくれた。先生は「心の中にたまっている思いがこんなにあるのだな、と思いました」「特に男の子は5年生位になると、言いたい事はたくさん浮かんでくる、だけどそれをうまく言葉に出来ない、それでイライラする、という時期なので」と当たり前○を他の5年生の男の子と同じに扱ってくれた。

75. 小学校。結果だけで叱ったりせず過程をよく聞いてくれ、謝ることはその場で謝り、仲直りもその日のうちに出来るような機会を作ってくれた。

76. 小学校。4月初め、担任が体育の時間の動画を見せてくれた。鉄棒付近で大勢の体操服姿の子が○を取り囲んでいる。○の手を鉄棒と一緒に握る子、お尻を持ち上げる子、足ごと鉄棒を超えさせる子。そして何とか皆の力で鉄棒の周りを回った。「逆上がりが出来た」というより「逆上がりさせてもらっ

た」という状況だったが、先生は「感動しました」と言いながら動画を見せてくれた。

77. 小学校。春の絵を描く会で担任は子供に分かりやすく塗り方を教えてくれ、下絵は、題材となる花の写真を16等分に折り、画用紙に引いた16等分のマスに一つずつ写していく、という方法で描かせてくれた。最初から「出来ないだろう」という思い込みを持たず、根気よく分かりやすく教えてくれたことがとても嬉しかった。

78. 小学校。夏休みの宿題のプリント集は1組も2組も、表紙に大きく「令和の夏 ○○の夏休み」と○○の部分に一人一人の名前が入ったものが配られた。内容もそれぞれの子供の得手不得手を分析した上で1冊1冊少しずつ内容が違ふ、世界に1冊、その子だけのプリント集だった。子供は「○の夏休み！」と嬉しそうに題名を読み上げては、プリントに取り組んでいた。自分の為に作られた「特別」のものが○もお友達も嬉しかったのだと思う。先生は子供のやる気を引き出すのがとても上手だと思った。

79. 小学校。総合学習の時間に育てたバケツ稲を収穫し、秋の学習発表会でお米に関しての発表をした。○は脱穀の実演担当で当日は上手に脱穀していた。それを見た担任は「昨日まで難しくてなかなかうまくいかなかったのに、今日は出来たね！すごい！」と褒めてくれた。うまくできないことを心配していたお友達にも「上手にしていたよ」と知らせ、お友達も喜んでくれていた。先生と一緒に頑張ってくれていたお友達が喜ぶだろう、と忘れずに伝えてくれたのだと思った。子供それぞれの気持ちを大切に作る素敵な先生、と感じた。

80. 小学校。床におちている塊(コロッとしていて一見便には見えなかったそうだ)と○が不自然な歩き方をしていることに気が付いた一部の子供たちが、担任に「○が何かおかしい」というようなことを報告してくれた。先生は落ちていた塊が便、と気づいてからも塊の話には触れず、「トイレを見に行ったら便座が汚れていた。多分(元々)汚れていた便座に気付かず○は座ってしまったのではないかな。足に汚れが付いて気持ち悪いだろうから着替えてくるね」と失敗したことが分からないよう子供たちに説明してくれ、保健室で着替えさせてくれた。からかいの対象となることを心配して下さった対応だったのだと思い、その細やかな心遣いが嬉しかった。

81. 小学校。軽い風邪で休んだ2日目。担任から夕方電話を頂き、連絡事項のあと「○は寝ていますか？」と聞かれた。「起きています」「少し話は出来ますか？」という事で受話器を○に渡した。先生と電話で話すなんて初めて。顔を見て言葉をやり取りしてもなかなか分かってもらえない○にとって電話は難易度が高い。心配しながら隣で聞き耳を立てていた。やはり会話とは言い難いやり取りとなったが、先生は「声が聞けて安心しました」と言って下さった。○も「明日は学校に行く！」と張り切っていた。先生の声が聞け、嬉しかったようだ。

82. 小学校。2月に全校でクラス対抗の大縄跳び大会があった。参加者は希望制、ということで縄跳びの出来ない○には関係のない催しだと思っていた。しかし練習の時も本番の日も○が跳ぶときは縄を「蛇」にしてくれ、○も1回“跳んだ”との事。そして再び「通常回し」に戻し、他のクラスと競ったそうだ。親はクラスメートの子に「クラスの皆『○のせいでやりにくい』など言っていない？」『あのクラ

ス、一回止めてずるい』とか他のクラスの子に言われたい？」と聞いてしまった。けれど、クラスメートの子は「え？そんなこと誰も言わないよ、なんで？○、蛇じゃないと跳べないでしょ？じゃ、どうするの？」と逆に聞かれた。「蛇」を当たり前とってくれているお友達の優しさも、先生が少し工夫することで○が参加できるようにしてくださったことも、有り難く思った。

83. 中学校。きょうだいが通っていた隣接区の中学校に越境入学することにした。小学校6年の時に補助でついていてくれた先生が子どもの入学と共に、その中学へ異動してきた。教育委員会の面談の時は、「中学は補助教員は付かないと思う。」と言われていただけに、ビックリした。中学入学時に細かな引き継ぎをイチからする必要もなく非常に楽だった。

84. 親は学校に何も頼んでいないが、字を書くのが苦手な子どものために板書の写真をプリントアウトして、毎回下さる先生がいる。

85. 定期試験の時は解答用紙がA3サイズに拡大されている。

86. 中学校。体育の授業でサッカーをやった時、歩行器を使っている我が子の為にコーナー付近に自由に動き回れる扇形状のエリアを白線を引いて作ってくれていた。

そこから我が子は何本かシュートを決めたいらしい。我が子は嬉しがっていたし、お友達の安全も確保出来(歩行器に足を引っ掛けたり、ぶつかけたりせずに済むので)なるほど!と思った。親としては、体育科の先生方が自分たちのやっている事をアピールせずに、さりりと当たり前のようにやって下さっていることにも嬉しさを感じる。

87. 小学校1年生。「まずは皆と同じ事をさせて、同じように接して下さい。必要な時に先生がフォローをお願いします。」と担任の先生にお伝えしていた。子どもは文字がほんのわずかな平仮名と数字しか書けなかったが、初日から当たり前に連絡帳を自分で書かせてくれた。子供は2、3文字わかるものだけ一生懸命板書してきた。足りない文章は先生がペンで書いてなぞらせてくれていた。「OK!」とかわいいハンコも押されていた。以来、1日1日と続けるうちに子供はどんどん連絡事項の板書が出来るようになった。子どもが読みづらい字を書いた時はさりげなく追記して下さったので、連絡事項が分からないことはなかった。

88. 小学校1年生。我が子は話すのが得意ではなく、家庭でほとんど学校の話をしていない。その事に気がつかった先生は(特にお願いしたわけではないのに)、連絡帳に「今日は●●の学習で●●という発言をしていました。」「楽しそうに●●をしていました。」など、その日の我が子の様子をちょこちょこっと書いてくださるようになった。毎日の学校の様子を知ることが出来、とても安心し、子育てのためになっている。

89. 小学校2年生。1年生のときから持ち上がりの担任の先生は、入学当初から「●●さんだけ特別にならないように、必ずみんなと同じ授業で楽しくできるようにします。もし、分からなくてつまらなくなりそうな時は、私が手助けしてさりげなく工夫をするようにします。」と言いつけてくださいます。

90. 我が子は算数も国語も一般の子よりはるかに理解出来ないことが多いはずなのですが、「授業が分からなくてつまらなくて席を立ってしまうことはありませんか？」と先生に聞いても、「それは一度もないですよ。●さんなりに一生懸命やっていますよ。」という回答。ノートやプリントも、見ると、先生の花まるやスマイルマーク、「がんばったね！」などのコメントが沢山。子どもがなぞってかけるように赤ペンで答えが書いてあったり、ガイド線やヒントがあるので、子どもは楽しみながら、一所懸命算数や国語に参加している様子。クラスには37人も児童がいるのに、一体先生はどうやっているのですか？と面談で聞いた所、「一斉にクラス全体に教えた後は、子どもたちにやらせる時間があり、その時は私が全員の中を歩いて回ります。その時にわからない子がいれば1人1人フォローします。その時に、●さんにも同じようにやっているだけです。」「ただし、算数は個別フォローに時間をかけたいときもあるので、週に2回、個別指導の先生に来てもらっています。私とその先生2人でクラスの中を回ってわからない子のフォローに入るので、●さんにもいつもより時間をかけて教えることが出来ます。」との事。授業参観もしたが、先生がおっしゃっていた通り、我が子が分からなそうにしていると、先生は歩きながら通りがかりにちょこちょこっとノートに赤ペンでお手本を書いたり、正しい頁を開いて「これをノートに写してみて？」など指差しで示したり、他の子にも指導する中でさりげなくフォローしてくださっていた。我が子は、「分からなくなっても先生がフォローしてくれる。必ず授業に私も参加できる。答えも皆の前で発表出来る。」という授業が当たり前になっているので、家に帰ってもその日に自分が書いたノートやプリントを誇らしげに親に見せてくる。間違っているけど、我が子なりに考えて問題を解いている。子どもの学習の権利を尊重されていると感じる。学校でしかできない体験なので、親として本当に嬉しい。

91. 小学校1年生。知的障害のある我が子が、朝の通学路で、数名の上級生の児童に数日間かけて容姿や声、障害の特徴など、皆と違うところをからかわれて、つきまとわれていたという事件が起きた。我が子は逃げたりしていたが、追いかけていた様子。他の学年の子どもが先生に報告して発覚した。報告を受けた先生は、すぐに子どもを呼んで何があったのか話を聞き(子どもはうまく話せないのだが、先生は分からないと決めつけずに、出来る限りの聞き取りと心のケアをしたそう)、その後、加害者の上級生の担任の先生に相談し、加害者の児童に自分たちのしたことを確認し、それがどういう事なのか、自分だったらどのような気持ちになるか、一緒に考えて指導をしたとのこと。

それだけでなく、クラスの皆にも、「この事を知っていた人はいますか？」と聞き、何人かの児童が手を挙げると、傍観していることもいじめになってしまう事、勇気を持って注意したり、すぐに誰かに話すことがいじめを防ぐことになる事、みんな仲間である事、などを話して下さったそう。親にも当日すぐに電話があり、「このような事があった。●さんにつらい思いをさせてしまった。発覚が遅くなり申し分けなかった、二度とこのような事が起きないように子どもたちに指導していきたい。」と報告があった。私が、「貴重な事例だと思うので、他の先生方に知ってほしい」と希望すると、快く承知してくださり、次の職員会議で学校の全ての先生方に口頭で報告して下さった。この出来事で、この小学校のいじめの意識は少しでも変わったと思う。

92. 小学校1年生。入学前に、校長先生に「子どもは知的障害がありますが、出来る子出来ない子という

目で見ないで下さい。偏見の目は敏感に他の子どもにも伝わるので、皆と違う子、という目で見ずに、〇〇小学校の児童の1人としてみて下さい。6年間楽しく通えるようにお願いします。」というお手紙を持参して面談に行った。校長先生は読むなり、「お父さんお母さんがここに書かれていることは、私も全く同感です。わが校ではすでにこのようなことは普段から気をつけていることですので、安心していらして下さい。学校はどんな子どもも安心して通えるところです。」と真剣におだやかに話して下さい。子どもの障害や心配について聞かれることは一切なく、始終、手紙の内容はもちろん心配無用ですよ、という雰囲気だった。安心して楽しみに入学式を迎えた。

93. 小学校2年生。担任の先生は、1年生の入学式のときから「とにかくいつも何でも話してほしい。疑問に思ったこと、私の対応で気になったことがあれば、いつでも話してほしい。」としつこく言い続けてくださいます。2年生も持ち上がりになりましたが、今でも「いつでも何でも話して下さいね。」と言い続けて下さいます。面談でも、先生の方から、「この学習では●さんにこのように対応していて、●さんはこのように参加していますが、大丈夫ですか？もしお母様が気になることやご要望があれば教えて下さいね。」などいつも対応についての報告が丁寧にあります。こちらは忙しいので申し訳ないと思うのに、面談の時間も多くとってくださいます。

また、先生は子どもの成長をいつも喜んで報告して下さいます。このような先生なので、親も、気になったことは何でも早めに連絡帳や電話で先生に話せました。子どもの家庭での様子や成長の喜びも、毎日連絡帳で気軽に伝えました。家庭と学校で連携して、いつも子どもにとって良い対応が出来たと思います。親が「我が子は普通級でも安心して居られるんだ」といつも感じていられるのは、子どもにとってもいい影響でした。親の私も担任の先生が大好きなんだ、ということは子どもにも伝わっていました。子どもは小学校に入ってびっくりするほど成長しました。毎日楽しそうに通っています。

94. 小学校1年生。子どもは知的障害があり、身の回りのことも出来ない事が沢山あった。入学時、大体のことだけを話して、あとは先生に聞かれるだろうからお願いして、、、と思っていたが、実際は先生は授業の参加方法以外はほとんど聞いてこなかった。後から確認したら、いろんな事を当たり前に対処してくれていた。トイレで失敗したことが発見されれば他の先生に手伝いに入ってもらって着替えさせてくれていたし、トイレの個室にこもってしまったら、内線で手の空いている先生に連絡して、様子を観にいらしてもらったり、給食も思い切り食べこぼしてしまうが、いつも拭いてくれていたし、体育の着替えも、最初は自分で挑戦させ、最後は体育の時間に間に合うように手伝ってくれていた。持ち物も、自分で管理することも教えながら、必要なものを持ち帰らせてくれていた。そのような中で、子どもが何かが自分で出来るようになれば報告してくれて、私も嬉しかったです。と一緒に喜んで下さった。そしていつも、丁寧に●●さん、と名前を読んできちんと子どもに話しかけてくれていた。忘れられない先生です。

(以上)